

飛騨民俗村再整備構想（概要）

なぜ再整備が必要なのか

飛騨民俗村と対象エリアについて

飛騨民俗村とは、有料施設の飛騨の里と無料施設の民俗村の総称である。再整備構想では、これら2つの施設を含む次の4つのエリアを対象とし、これら4つのエリアを総称して「松倉・民俗村エリア」とする。

- ①飛騨の里エリア
- ②民俗村エリア
- ③松倉山エリア（松倉城址、松倉遊歩道等）
- ④飛騨の里通りエリア（友好の丘から飛騨の里までの通り）

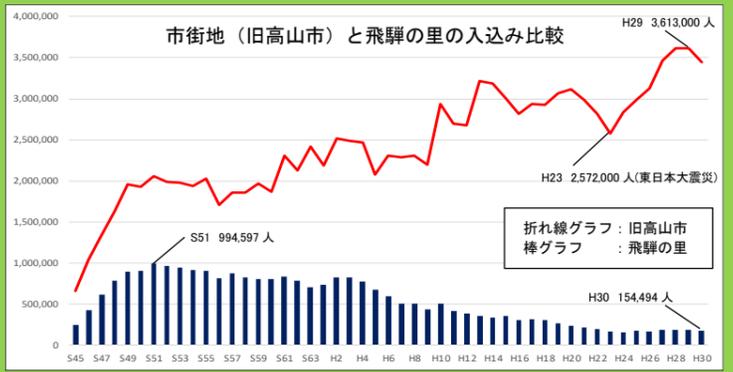
飛騨民俗村の魅力

- ・飛騨地域のかつての里山や農山村地域の生活を感じられる施設であり、町人文化を色濃く残す古い町並や、寺社が立ち並ぶ東山・城山エリアとは異なる要素（魅力）を持つ。
- ・飛騨民俗村は江戸後期から明治期の飛騨地域のかつての里山を再現した施設であり、支所地域が有する、田園風景や自然豊かな農山村景観とも異なる要素（魅力）を持つ。
- ・合掌家屋だけでなく、様々な建築様式を展示する野外博物館であり、独自の空間づくりや一体的な管理ができることから、白川郷とも異なる要素（魅力）を持つ。

しかし

飛騨民俗村の現状

- ・飛騨の里の平成30年の入込みは15万4千人であり、最盛期の6分の1以下となっている。（民俗村の入込みは不明）
- ・開設から45年以上経過し、老朽化が進んでいる。



さらに

飛騨民俗村の周辺の現状

- ・飛騨の里通りに多くの空き家（12棟）や空き地がある。
- ・「飛騨の里の入込み減少」→「近隣店舗閉鎖（空き家増加）」→「この地域での滞在時間減少（回遊性低下）」→「賑わいの低下」→「さらなる入込みの減少」と負のスパイラル（悪循環）に陥っている。

調査

基礎調査と地域住民との意見交換会の実施

松倉・民俗村エリアの現状の把握と課題の抽出を行うため、平成29年度に基礎的な調査を行った。結果は以下のとおりである。

各種調査の結果

分類	課題
顧客ニーズへの対応	・飛騨民俗村の施設や設備が老朽化している ・飛騨民俗村の施設内に物販や飲食施設がなく、休憩場所もない ・飛騨民俗村の施設内の順路や体験場所がわかりづらい
バリアフリー対応	・飛騨民俗村ではスロープ等の貸し出しがない ・飛騨民俗村の障がい者用駐車場が基準にあっていない ・文学散歩道がバリアフリー化されていない
インバウンド対応	・バスセンターでの案内（バスの乗り方等）が不十分である ・歩道が十分に整備、維持管理されておらず、街灯も少ない ・駅から飛騨民俗村までの案内看板が不足している
住民・関係者が望む地域のあり方	・文学散歩道や松倉城址などの資源が有効活用されていない ・市民の利用が少ない
旅行商品の造成	・知名度が低く、白川郷と競合している
交通アクセス・駐車場	・市街地エリアからのアクセスが悪い ・飛騨民俗村で駐車場利用料が課されることへの不満 ・インターからの道路案内が少ない
空き家活用	・空き家を活用するための補助がなく、空き家の老朽化が景観を阻害 ・飛騨民俗村を中心としたエリアマップ（パンフレット）がない
プロモーションの展開	・ホームページがスマートフォン等へ対応していない ・市街地エリアの観光地と比べて認知度が低い

また、地域住民等との意見交換会を実施し、その中で出た主な意見は以下のとおり。

- （飛騨民俗村について）
 - ・休憩所や食事ができる施設を充実してほしい
 - ・駐車場を無料にしてほしい
 - ・歩行空間として文学散歩道の整備が必要である
 - ・文化財収蔵庫の重要文化財をもっと活用すべきである
- （松倉山について）
 - ・松倉山を市民が憩える場所としてほしい
 - ・松倉城跡を整備し、多くの人が訪れる場所にしてほしい
- （飛騨の里周辺地域について）
 - ・街灯設置など歩行者の安全確保が必要である
 - ・空き家が増加しており対策（補助制度の創設）が必要である
 - ・飛騨の里を中心とした周辺マップ作成が必要である
 - ・このエリアの認知度が低いため、もっとPRが必要である など

分析

調査結果による飛騨民俗村の入込み減少の分析

- ・白川郷の存在
⇒ 白川郷とは似て非なるものであるが、その違いが一般には認識されておらず、基礎調査での旅行会社への聞き取りにおいても「白川郷と被る」「インバウンド客は白川郷を目的に来日する方が多い」などの意見があったことから、新たな要素（魅力）を加えるなど、白川郷との明確な違いを打ち出す必要がある。
- ・施設の老朽化やバリアフリーへの一部非対応
⇒ 施設（設備）の老朽化や、砂利道での車いす移動が困難など、バリアフリーへの対応が十分でないことへの不満がある。
- ・情報発信の不足
⇒ 昨今の旅行者はスマートフォンやタブレット端末から情報を得ることが多いが、飛騨民俗村のホームページはそれらに対応したものになっていない。

市場の変化による飛騨民俗村の入込み減少の分析

- ・団体旅行の減少（個人旅行へのシフト）
⇒ かつての飛騨民俗村の入込みを支えていたのは団体客であり、それは飛騨民俗村が大型バスを停車できる駐車場を有し、周辺（飛騨の里通り）に団体客を受け入れ可能な飲食店や土産物店が立ち並んでいたからである。旅行形態が個人旅行へとシフトするなか、その変化や個人旅行者のニーズへの対応が十分ではなかった。

解決策

課題解決のために

- （飛騨民俗村）
 - ・飛騨民俗村の魅力を最大限に活かし、飛騨地域の民俗文化を体験・体感できる仕組みづくりが必要
 - ・誰もが安心安全に施設を巡ると共に、様々な体験ができるよう飛騨民俗村の建物の計画的な施設修繕（リニューアル）が必要
 - ・SNSなどインターネットを活用したタイムリーな情報発信が必要
 - ・個人旅行者のニーズ（体験型観光を含むコト消費への関心の高まり）に対応することが必要
- （松倉・民俗村エリア全体）
 - ・飛騨民俗村を取り巻く負のスパイラルを解消するためには、地域住民と一体となって松倉・民俗村エリア全体での取り組みをすすめることが必要（「飛騨の里の入込みの増加」→「近隣店舗等の活性化」→「この地域での滞在時間増加（回遊性向上）」→「賑わいの高まり」→「さらなる入込みの増加」といった正のスパイラルへの転換）

構想の必要性

飛騨民俗村は、市内の様々な観光資源とは異なる魅力を持つ高山市の観光になくしてはならない施設であることから、高山市の持続可能な観光地づくりのためには、飛騨民俗村の活性化が不可欠である。
そのため、行政と地域住民が一体となって松倉・民俗村エリアが陥っている負のスパイラルからの脱却をはかり、エリア全体が先人が培ってきた飛騨地域の民俗文化等を活かした持続可能な観光地となるよう、飛騨民俗村再整備構想を策定する。

再整備構想の策定

再整備構想の策定

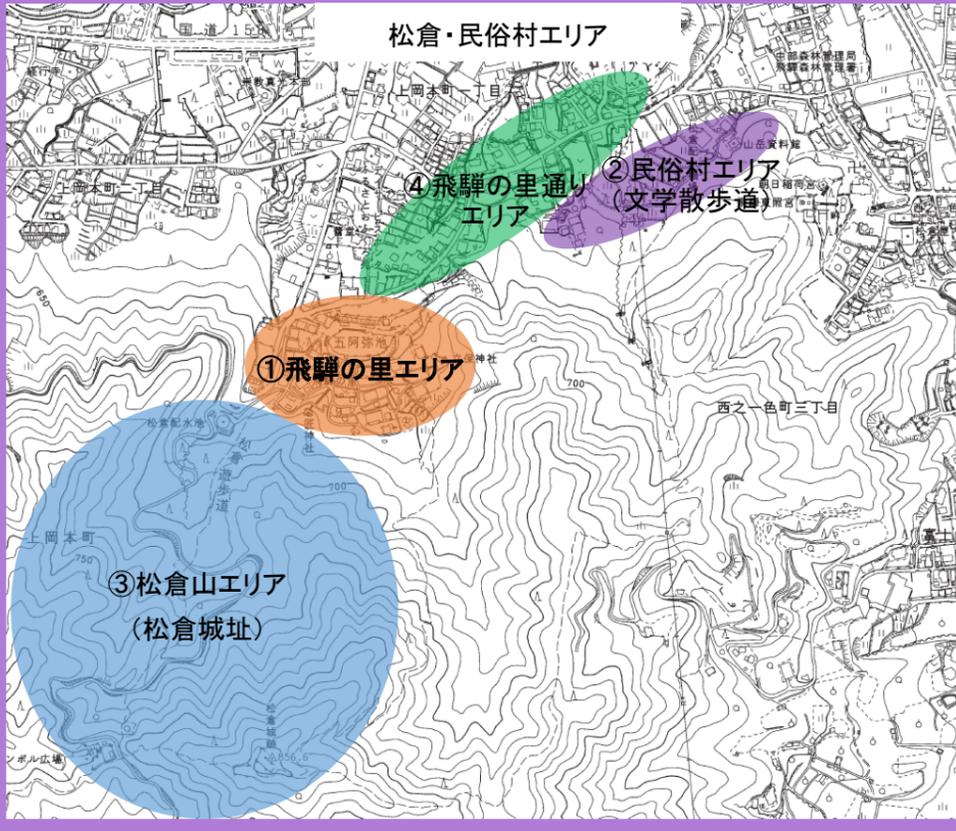
- 期間：10 年間
 - 前期：主に市が主体となった事業を実施（市有施設の改修など）
 - 後期：主に地域住民や民間事業者が主体となった事業を実施
- 前期と後期の設定

市有施設の改修など、市の判断で実施可能な事業を先行して（前期）行いながら入込みの増加を図り、その後（後期）、それらを地域全体に波及（回遊性向上）させるために、地域住民や民間事業者が主体となった様々な事業を実施（市は側面から支援）していくこととする。
- 目指す姿

「飛騨地域の民俗文化や里の風景のなかで非日常感を楽しむ多くの人々で賑わっている」
 - 目標値
 - ・ 飛騨の里の入込み 35 万人以上
 - ・ 松倉・民俗村エリアの平均滞在時間半日（4 時間）以上
 - 対象エリア（再掲）

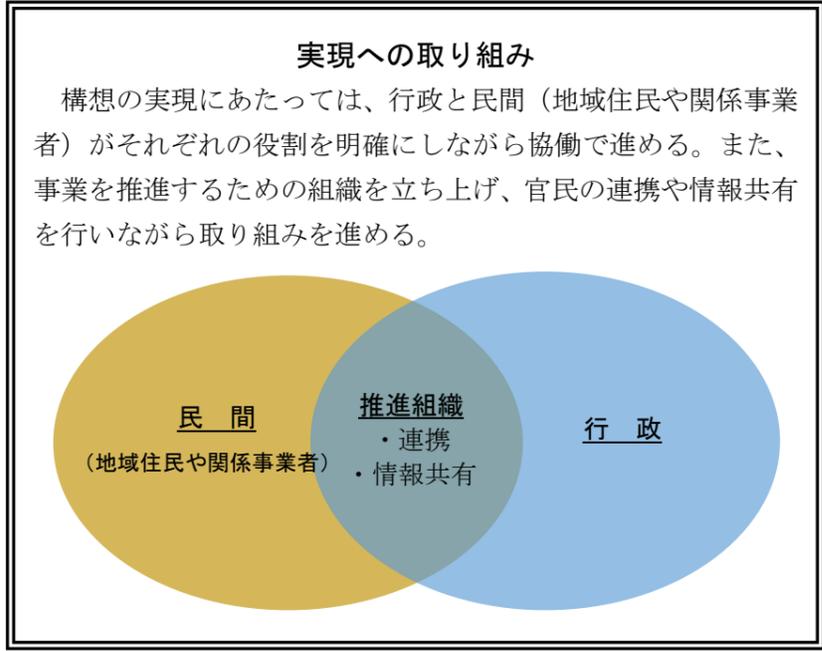
対象エリアを次の 4 つとし、これら一帯を「松倉・民俗村エリア」とする。

 - ① 飛騨の里エリア
 - ② 民俗村エリア
 - ③ 松倉山エリア
 - ④ 飛騨の里通りエリア



再整備の方向性

- 各エリアの位置づけ
 - ① 飛騨の里エリア: 再整備構想のメインエリアとして、体験メニューの充実など体験型観光の拠点とする
 - ② 民俗村エリア: 様々な体験メニューの提供のほか、文化財収蔵庫の活用等により、飛騨の民俗文化を学べるエリアとする
 - ③ 松倉山エリア: 松倉山の自然が満喫でき、観光客だけでなく多くの市民が憩えるエリアとする
 - ④ 飛騨の里通りエリア: 地元食材を提供する食事処や、飛騨の民芸品等を販売する店舗が建ち並び、人々で賑わう活気のあるエリアとする
- 課題解決のための整備の視点
 - 体験型観光の推進**
 - 前期：飛騨民俗村における飛騨の民俗文化を体験・体感できるコンテンツ（有道しゃくし等民芸品の作製、囲炉裏での飲食、馬・牛・蚕の飼育など）の整備、飛騨民俗村建物の貸館やイベント会場としての貸出し、飛騨民俗村のライトアップの強化による夜間観光施設としての確立、飛騨の里まつり等イベントの開催 など
 - 後期：飛騨民俗村建物における宿泊機能の整備 など
 - バリアフリーの推進**
 - 前期：飛騨の里駐車場への多目的トイレ設置、歩行者安全確保のための飛騨の里通りの街灯整備、文学散歩道の整備（休憩施設の整備等） など
 - 後期：飛騨の里通りの車両交通規制の実施 など
 - 情報の発信**
 - 前期：モバイルに対応した情報発信（飛騨民俗村ホームページなど）、飛騨民俗村建物等への多言語ガイドシステムの導入、飛騨民俗村のPR動画作成 など
 - 地域の活性化**
 - 前期：空き家や空き地活用のための補助金制度の創設、観光特化型バスの運行及びパークアンドライドの検討、松倉城跡の国指定史跡化、松倉山や文学散歩道での四季折々の花・樹木の植樹、文化財収蔵庫の収蔵物の公開、飛騨民俗村を含む周辺施設との共通入場券の販売 など
 - 後期：空き家を活用したインキュベーション施設の整備、松倉城跡保存活用計画の策定及び当該計画に基づく整備（遊歩道や山頂眺望の整備等）の実施、友好の丘旧売店施設の活用、松倉山の景観整備、まちづくり計画の策定やまちづくり協定の締結 など



高山市にもたらす効果

本再整備構想による様々な取り組みにより、松倉・民俗村エリアが活性化することで、古い町並を中心とする中心市街地に観光客が一極集中しているという課題の解決や、中心市街地での車両混雑の解消など、高山市全体の観光にも効果をもたらすことが期待できる。